



“すま”というやわらかなことばの響きは 幻想的でもの悲しい情感をかもし出させる。確かにこの地は白砂青松の美しい海岸を背景に 源氏物語の須磨の巻 能の名作“松風”一ノ谷^{よたばでん}兼光^{あつもし}の教盛悲話などの数々の名作の舞台となっている。

本地質図幅の報告書に納められた明治18年測量の地形図にはやわらかな曲線を描く海岸線と対照的な六甲山地の断層崖 美しい形を描く扇状地群がはっきりと表現されており 文学のふるさととなったこの地の生の自然を示している。

このような須磨地域も 近年の土地開発に伴う人工改変は著しく 海岸は埋め立てられ 丘陵・台地は大きく削り取られ大きく変貌しつつある。そしてこれらの過程により得られた地質学的情報は多く 本地質図幅及び報告書に十分に盛り込まれている。

特に 現在 西神地区開発計画が進行中で 垂水区のほぼ全域にわたって自然改造的な造成工事が行われ その切り取り土砂は海岸の埋立地造成に利用されている。その間に地質学的に意義のある露頭が続出している。これらに基づいて 大阪層群の地質年代・化石及び第四紀の地殻運動に関する詳しい考察が行われている。

また 当地域の東部に位置する神戸港には 昭和40年代初めから大規模な人工島 ポートアイランドの造成工事が行われ 昭和58年にほぼ完成している。更に 東方に六甲アイランドを建設中である。この両人工島造成に関連して深度100m前後に達するボーリング調査が行われ この成果が神戸港の海底地質に関して平易にまとめられている。

本地質図幅には 地形的に六甲山地の南西方への延長とみられる淡路島の北東端が含まれている。両地域をつなぐ位置にあり 重要視されている明石海峡部は 昭和34年以来 本州—四国連絡橋計画の一環として 国鉄・建設省・本四連絡橋公団により海底調査が行われ 海底の地形・地質に関する資料が豊富に得られている。これらを基礎にして これまで不明な点の多かった明石海峡の地質構造が明らかにされ その形成史が考察されている。

更に 本図幅の特徴として 応用地質に関する記載が詳しいことがあげられる。埋立及び人工島建設に関する諸問題 斜面崩壊・豪雨時の土石流及び水害 明石海峡大橋建設に関する調査などに多くの頁がさかれている。

本図幅地域について長期にわたって研究を続けている両著者

5 万分の 1 地質図幅の新刊

須 磨
S U M A

5 万分の 1 地質図幅 地域地質研究報告

著 者 藤田和夫・前田保夫
 発 行 工業技術院 地質調査所
 取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 2,390円

によって おびたしい地質資料が実にわかり易くまとめられている。学問的に高水準の考察がなされているとともに 応用地質学的な問題についての検討も十分になされており 極めて有用な著と言えよう。

また 北及び北東に隣接する「神戸」・「大阪西北部」地域と合わせて 西南日本の地殻変動に関するあらゆる情報がそろっており 三地域を合わせて読むことにより より一層の理解が深まるであろう。

(文・寒川 旭)

<p>地 質 ニ ュ ー ス</p> <p>昭和59年 8 月 1 日</p> <p>編 集</p> <p>発 行 人</p> <p>発 行 所</p> <p>総発売元</p>	<p>第 360 号</p> <p>8 月 号</p> <p>定 価 ￥ 600</p> <p>干 実 費</p> <p>発 行</p> <p>工業技術院 地質調査所</p> <p>林 久 雄</p> <p>株式会社 実業公報社</p> <p>東京都千代田区九段南4の2の12</p> <p>Tel. (03)265-0951(代表) ㊦102</p> <p>振替口座 東京 1-32466</p> <p>株式会社 実業公報社</p> <p>出版事業部</p>
--	--